

平成 30 年度 第 10 回広島市感染症対策協議会

平成 31 年 2 月 18 日

【日 時】 平成 31 年 2 月 18 日（月）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、堂面 政俊、増田 裕久、
藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) インフルエンザの流行状況について（資料 1 P1～10）

平成 31 年第 3 週（1 月 14 日～1 月 20 日）の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が 41.76 人（警報基準値：30）となったため、1 月 23 日、市内のインフルエンザ患者数が警報レベルを超えた旨の広報を行った。その後、第 4 週に定点当たり患者報告数が 49.57 人と最大値となり、第 5 週以降は減少傾向にある。

平成 31 年第 6 週現在、基幹定点 2 か所におけるインフルエンザ迅速診断キット検査では、A 型 3,763 件、B 型 17 件が検出されており、流行の中心は引き続き A 型となっている。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は、2 月 15 日までに 196 件が報告されており、こちらも第 4 週の 57 件をピークに減少傾向にあるものの、第 6 週も依然 36 件が報告されている。

流行のピークは過ぎたと考えられるが、引き続き、市民に対し、手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防対策を徹底するよう呼びかけていく。

（委員意見）

引き続き、感染予防対策の啓発を行ってほしい。

(2) 結核集団感染の発生について（資料 1 P11～14）

平成 30 年 11 月 15 日、広島刑務所より肺結核患者 1 名（40 代男性）の届出があり、患者と接触のあった入所者について健康診断等を実施したところ、発病者 4 名が確認され、集団感染の定義に合致したことから、1 月 23 日、厚生労働省に報告を行うとともに、報道発表を行った。

また、平成 30 年 9 月 28 日、広島市内において、医療機関から肺結核患者 1 名（30 代女性）の届出があり、患者と濃厚接触があった家族及び患者と同じ職場に勤務する者に健康診断を実施したところ、発病者 3 名及び感染者 2 名が確認され、集団感染の定義に合致したことから、2 月 4 日、厚生労働省に報告を行うとともに、報道発表を行った。

本市においては、引き続き感染拡大防止のための調査・健診を実施するとともに、患者及び感染者に対し、他者への感染防止に係る指導や治療完遂のための服薬支援を行っている。また、感染が確認されなかった接触者等に対しても、咳などの自覚症状がある場合には申し出を行うよう健康管理について指導を行っている。

（委員意見）

引き続き、患者等へのフォロー及び感染拡大防止策を講じるとともに、結核について、市民への啓発をお願いしたい。

(3) 麻しん患者の発生について（資料 1 P15～18）

平成 31 年第 6 週（2 月 4 日～2 月 10 日）現在、全国の麻しん患者報告数は 167 例となっている。

広島県内においては、1 月 22 日に福山市管内で 3 例、同 31 日に県東部保健所福山支所管内で 1 例、2 月 12 日に福山市管内で 1 例の計 5 例が報告されている。

また、集団発生が報告された三重県では 49 例、大阪府でも 47 例が報告されているほか、全国各地で海外からの帰国者の患者発生が相次いでおり、これらの患者からの二次、三次感染が懸念されている。

本市においては、引き続き、市民へ予防接種勧奨を行うとともに、海外渡航時に特に気をつけるべき感染症としてホームページ等で周知を行っていく。

(委員意見)

引き続き、予防接種の勧奨を行うとともに、患者発生時には、行動履歴等を調査し、市民や医療関係者に速やかに情報提供するなど、感染拡大防止策を講じてほしい。

2 1月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	平成31年1月分	平成31年2月分
		報告日 12/31~2/3	報告日 2/4~2/15 現在
2類	結核	13人 (結核7人、潜在性結核6人)	3人
4類	A型肝炎	2人 (1/10、1/21)	
	レジオネラ	1人 (1/7)	
5類	ウイルス性肝炎	1人 (1/28)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1人 (1/4)	
	急性脳炎	4人 (1/7、1/17、1/21、1/21)	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1人 (1/7)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人 (1/4)	
	後天性免疫不全症候群		1人 (2/8)
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1人 (1/22)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人 (1/28)	2人 (2/4、2/5)
	梅毒	8人 (1/7、1/7、1/11、1/15、1/16、1/17、1/30、1/31)	1人 (2/14)
	百日咳	5人 (1/4、1/4、1/28、1/30、1/31)	3人 (2/6、2/14、2/14)
風しん	2人 (1/4、1/5)	3人 (2/7、2/12、2/14)	

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成31年3月18日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：1月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（2月分）

平成31年2月18日

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、1月は7,567人で、前月比3.12と大きく増加した。

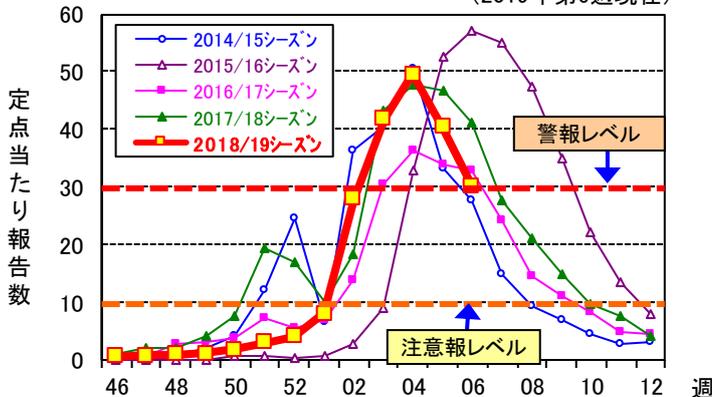
インフルエンザは大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症はやや減少、咽頭結膜熱、水痘、突発性発しん、流行性角結膜炎は減少、手足口病は大きく減少した。

(2) 特記事項

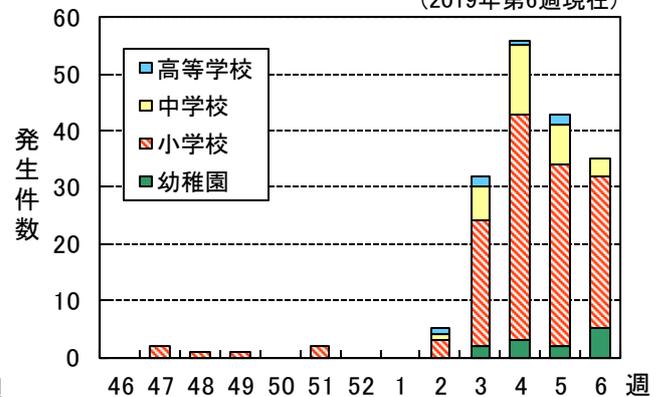
● インフルエンザは第3週(1月14日～1月20日)に警報レベル(定点当たり30.0人)を超え、第4週(1月21日～1月27日)には定点当たり49.6人とピークを迎えた。その後は減少傾向となったが、第6週(2月4日～2月10日)は定点当たり30.1人と依然警報レベルを超えている。学級閉鎖等は第3週以降急増し、第6週現在の累計報告数は182件(幼稚園13件、小学校131件、中学校29件、高校6件、その他3件)となっている。今後もしばらくは流行が続くと予測されるため、注意が必要である。予防や感染拡大防止のため、手洗いや咳エチケットの励行、人混みへの外出は控えるなどの対策を徹底することが重要である。なお、基幹病院2か所による迅速診断キット検査結果では、今シーズンはA型が3,763人、B型が17人報告されており、A型が99.6%を占めている。また、広島市衛生研究所による遺伝子検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型が21件、インフルエンザウイルスA(H3)型が11件、B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)が2件検出されている(2月10日現在)。

● 感染性胃腸炎の患者報告数は、12月にピークを迎えその後はやや減少したが、1月は感染性胃腸炎の集団発生が4件報告されている。福祉施設・学校・保育園などの集団生活の場では、流水・石けんによる手洗いの励行、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底する必要がある。

広島市におけるインフルエンザ定点当たり報告数
(2019年第6週現在)



インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等発生件数
(2019年第6週現在)



(3) 1月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 13件（患者：7件、潜在性結核：6件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：A型肝炎 2件 レジオネラ症 1件
- 5類感染症：ウイルス性肝炎 1件 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件
- 急性脳炎 4件 クロイツフェルト・ヤコブ病 1件
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 侵襲性髄膜炎菌感染症 1件
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1件 梅毒 8件 百日咳 5件 風しん 2件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行中】
- 感染性胃腸炎・・・【流行中】

2 検査情報

(1) 1月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	11 月	2 人
	インフルエンザウイルス A(H3)型	11 月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	12 月	2 人
	インフルエンザウイルス A(H3)型	12 月	1 人
	B 型インフルエンザウイルス	12 月	1 人
感染性胃腸炎	サポウイルス	11 月	1 人
	アデノウイルス 1 型	12 月	1 人
	ノロウイルス GII	12 月	1 人
手足口病	コクサッキーウイルス A6 型	12 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	12 月	1 人
	アデノウイルス 3 型	12 月	3 人
その他の呼吸器疾患（扁桃炎）	アデノウイルス 2 型	11 月	1 人
	アデノウイルス 2 型	12 月	1 人
その他の呼吸器疾患（喘息）	ライノウイルス	12 月	1 人
その他の消化器疾患	サイトメガロウイルス	11 月	1 人
その他の消化器疾患（胃腸炎）	*1 アデノウイルス 1 型	12 月	1 人
	*1 サポウイルス		
その他の神経系疾患	エコーウイルス 18 型	11 月	1 人
	サイトメガロウイルス	12 月	1 人
その他の疾患	アデノウイルス 2 型	12 月	1 人
その他の疾患（熱性痙攣）	パラインフルエンザウイルス 1 型	12 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	ライノウイルス	12 月	2 人

*1：複数病原体検出例

(2) 特記事項

26 人の患者から 14 種類のウイルス 27 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型 4 株、アデノウイルス 2 型、同 3 型及びライノウイルス各 3 株、アデノウイルス 1 型、インフルエンザウイルス A(H3)型、サイトメガロウイルス及びサポウイルス各 2 株、アデノウイルス 37 型、B 型インフルエンザウイルス、エコーウイルス 18 型、コクサッキーウイルス A6 型、ノロウイルス GII 及びパラインフルエンザウイルス 1 型各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(平成31年1月解析分)

1. 週報対象(第1週～第5週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		6,178	167.63		10	流行性耳下腺炎		18	0.77	
2	咽頭結膜熱		24	1.00		11	RSウイルス感染症		54	2.28	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		284	11.92		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		873	36.74		13	流行性角結膜炎		20	2.51	
5	水痘		31	1.32		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		7	0.29		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		21	0.88		16	マイコプラズマ肺炎		5	0.72	
8	突発性発しん		25	1.05		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		2	0.08		18	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		5	0.72	

2. 月報対象(1月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	3.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		18	2.00
3	尖圭コンジローマ		8	0.89
4	淋菌感染症		16	1.78
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		18	2.57
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成31年1月分)

第1週～第5週(12月31日～2月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	13	13	1,482	1,482
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	7	7
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	-	85	85
	18 腸チフス	-	-	3	3
	19 パラチフス	-	-	2	2
四類	20 E型肝炎	-	-	34	34
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	2	2	60	60
	23 エキノコックス症	-	-	1	1
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	2	2
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	-
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	1	1
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	1
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 テクングニア熱	-	-	-	-
	40 つつが虫病	-	-	35	35
	41 デング熱	-	-	32	32
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	1	1
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	4	4
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	1	1	130	130
	62 レプトスピラ症	-	-	-	-
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	-	59	59
	65 ウイルス性肝炎	1	1	31	31
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	173	173
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	5	5
	68 急性脳炎	4	4	174	174
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	-
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	10	10
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	97	97
	72 後天性免疫不全症候群	-	-	78	78
	73 ジアルジア症	-	-	1	1
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	84	84
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	1	1	8	8
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	418	418
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	38	38
	78 先天性風しん症候群	-	-	1	1
	79 梅毒	8	8	457	457
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	13	13
	81 破傷風	-	-	3	3
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	8	8
	84 百日咳	5	5	1,359	1,359
85 風しん	2	2	367	367	
86 麻しん	-	-	148	148	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	3	3	